

第102回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2018年1月8日(月) 14時～17時

兼題「初景色」

- 保井寶正 ○日溜に椅子移しつつ春隣
箱根路に荒魂競ふ初日の出
書初めの和の一文字に託しけり
瑞祥の気青し富士の初景色
- 佐久間喬 ○門毎の日の丸失せし初景色
元朝や変はらず淹れるモカ・マタリ
歳の順納得顔のお年玉
まなざしは袋持つ手にお年玉
- 丸山酔宵子 ○物乞ひも牛も横切る初景色
街灯に浮かぶ山茶花家遠し
風に揺れ夕陽に映える枯尾花
ヒンディーもイスラムシークも降誕祭
- 菊地崇之 ○新たなる富士をしつらえ初景色
晴れ姿禱り臨みし発句会
青々と夜のたたき値なずな粥
衣服剥ぎ風呂から床へ寒の内
- 吉田啓悟 ○ベランダに止まる雀や初景色
音羽屋ところあひ計る初芝居
水茎の掠れあるある賀状かな
古年の忌中のしらせ五枚ほど
- 青木英林 ○七種を唱へて喰らふ老夫婦
風花の何処より舞ふ上州路
副都心影くつきりと冬茜
初景色見慣れしものの薄化粧
- 後藤克彦 ○鮫鱈の吊るし切りされ仏顔
冬帽子深く被りて老い兆す
枝一本少なに気づく初景色
牡蠣鍋やフーフーフーと吹きて食べ競ふ
- 山本草風 ○妻と吾何もかはらぬ去年今年
朝飯に納豆ご飯四日かな
初御空カオスの世界風強し
晴れ着きし乙女の蹴出し初景色

- 佐伯兵庫 ○早仕舞挨拶ばかり初仕事
酔い醒めて店から店へ冬の夜
初景色玉砂利の音加わえけり
新企画出そうで出ない小正月
- 佐久間たか子 ○仏間にて筆下ろす音淑気みつ
見慣れたる墓に集いて初景色
駅伝の激走襷と共にあり
初富士は陽あび悠悠言葉なし
- 金森純女 ○ゆったりと歩みゆく猫初景色
福寿草露店明るく照らしをり
凍蝶を見し日の夜や訃報来る
初雪や遅配をわびる耳赤し
- 渡辺鯨波 ○震度4ずれてしまった初景色
大都会将門塚の初景色
数式のような奇跡や冬の蝶
じゃんけんに負けてボサノバ大晦日
- 澁谷瑠璃 ○六花睫毛の先に不時着す
溶けるまで折れた氷柱で天使呼ぶ
雪^{ゆきよる}夜の流星群透視せむ
初景色深夜ラジオのニューウェイヴ
- 石川智子 ○蒼穹の明日へと続く初景色
寒風に凜と立ちたる受験生
何もなきことが幸せ三ヶ日
満月で祝う戌年としはじめ
- 原 晶如 ○瘤吼ゆる裸木にある孤独力
更科の田毎は白き初景色
冬山に弛むもゆたか送電線
開拓の石碑残して冬の圃
- 青葉ひかる ○初景色富士の雄姿が碧に浮く
舞い降りし細雪に染まる赤い花
山茶花の紅白ピンク饗宴かな
大吉で幸来る気配年始かな

次回「萩句会」

日時 2018年2月12日（月）14時～17時

場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題 『針供養』もしくは『猫の恋』一句 当期雑詠三句 計四句